



## 住みやすい町を目指して...③2

### 時代の流れと共に、鉢植えミカンで都市農業を目指す!

元農業委員 北村 欣也よし なり(神山在住)さん

松田地区の農業は水田とミカンが主流でしたが、専業農家は激減し殆どが他産業から収入を得る兼業農家となっています。そのような中で時代の流れと共に、新たな経営の柱となる鉢植ミカンを取り入れて、都市農業に携わる北村欣也(75歳)さんにお話を伺いました。(聞き手：田代 実)

**Q** 就農した時は、どのような経営でしたか。

**A** 昭和30年代後半に就農しました。当時はミカンで高収入を得られる時代で、両親と共にミカンとコメを栽培していました。昭和47年のミカン価格暴落を機に、キウイフルーツを導入しました。

**Q** 現在、どのような経営をされていますか。

**A** ミカン50a、キウイ50a、水田30a、鉢植えミカン10a、合計140aです。

**Q** 鉢植えミカンとは、どのようなものですか。

**A** 温州ミカン(宮川・大津・青島)やキンカン・スダチ・レモンなどを鉢植えにして、果実の着いたものを年間2000鉢、東京市場に直接出荷しています。圃場には6000本程の苗を植栽していますので、3年サイクルでの出荷になります。

**Q** 鉢植えミカンを導入した理由と人気の品種は。

**A** 年間の労働力を平準化することと狭い面積で高収入になるので、15年程前に導入しました。30種類程を生産しており、レモンと本ユズが人気商品です。

**Q** 経営の柱となる作目と苦勞されていることは。

**A** 鉢植えミカンとキウイです。大変な作業は、キウイの受粉です。雌雄別々の木なので、人の手で雄花から花粉を採取して、雌花への授粉を5月中下



鉢植えミカンの手入れ作業

旬に行います。親戚や知人の応援をいただき最盛期には10人以上で行ないますが、雨天後はつらい作業になります。

**Q** 今後の松田地区の農業のあるべき姿は。

**A** 今は他産業に就ける時代なので、経営面積を極力減らし兼業農家として無理のない範囲で、高収入を目指す方向かと思います。温州ミカンを始め、雑柑類(オレンジ等)も高品質なもののできるので選択肢になります。農業を生業とするには、狭い面積で付加価値のある農産物を生産しなければ経営は難しいと考えます。

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下記までご連絡ください。

## 皆さんの傍聴をお待ちしております! 第1回定例会は3月6日(火)開会

議会広報広聴常任委員会  
委員長 平野由里子  
副委員長 飯田 一  
委員 中野 博  
委員 小澤 啓司  
委員 齋藤 永  
委員 大館 秀孝

待ください。

(飯田)

本誌で報告している昨年の北海道議員行政視察につきましては、財政破綻した街からの復興、北海道の大自然を活用した町づくりなど、様々な面を見せていただき、中身の濃い視察となりました。その結果を、今後の町づくり生かしたいと強く感じています。ぜひ、今後の活動にご期待ください。



野山の草木も芽吹く季節になりました。松田町でも、ロウバイから早咲き桜、そして、枝垂桜へと季節が移ります。